

◆ 巻頭言

草食男子も負け犬もおひとりさまもいる
世の中がいい

深澤 真紀

「草食男子」というと、“情けない”“覇気がない”というイメージをもつ方も多いだろう。私はこの言葉を「上の世代の男性よりも柔軟で、女性にとってもつきあいやすい男性」という意味で名付けたのだが、「今時の若い男性に不満をもつ人々」によって逆の意味で流行してしまった。流行語にはよくあることではあるのだが、彼らのよさを知る名付け親としては残念でならない。

高度経済成長時代やバブル期には、多くの男性たちは右肩上がりの人生を送ることに疑問を抱かなかった。しかし現代の若い男性たちは同じように生きることとはできない。だからこそ、自分なりにサバイバルをしようとしていて、その生き方の1つが「草食男子」なのだ。

そんな若い男性に、上の世代の男性だけではなく女性も、「男のくせに」と不満をもってしまうことが多いのだが、草食男子を非難することは、自分たちの生き方も息苦しくしてしまうものだと思う。

一方で女性をめぐる流行語は、この数年では女性自身が自虐も込めて語る「負け犬」「だめんず」「おひとりさま」が話題になった。これらの流行語は、これまで「女性に求められてきた生き方」を逸脱してもいいのだというエールでもあった。画期的だし面白いことだった。

ところが昨年あたりから、またぞろ「女子力」「輝く女性」などがもてはやされるようになってきた。「結婚も出産も仕事も友人も趣味も美貌も若さも女らしさも全部手に入れよう！」というメッセージだ。

これを象徴するのが、女子力派の勝間和代と反女子力派の香山リカの“カッター vs. カヤマー論争”だろう。

「男らしさも女らしさも趣味の1つ」だと私は思う。そして草食男子であれ、負け犬であれ、それぞれが生きやすい世の中のほうが自分だって生きやすい。とりあえず「草食男子は情けない」と嘆くのをやめてみるところから、始めてみてはどうだろうか。



PROFILE

深澤 真紀
(ふかざわ まき)

コラムニスト・編集者。
企画会社タクト・プラン
ニング代表取締役社長。
1967年東京生まれ。
早稲田大学在学中、「私
たちの就職手帖」副編集
長を務める。「草食男子」
を命名して2009年流行
語大賞トップテンを受
賞、国内だけではなく世
界でも話題に。著書に『草
食男子世代』『女はオキ
テでできている』など。